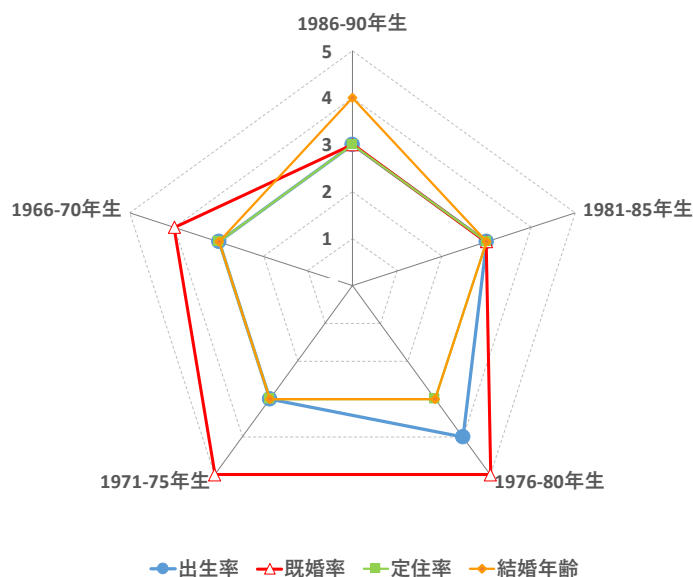


(6) 小千谷市

①出生に関する総合評価

図6-1 コホート別総合評価



注：各コホート別の新潟県30市町村内の順位を5段階で評価している。

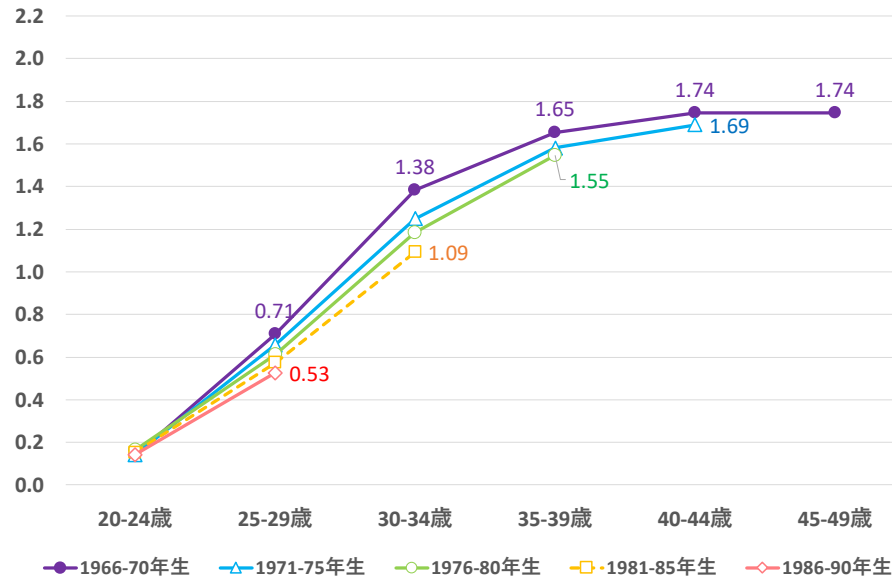
1. 合計出生率は、1966-70年生まれ、1971-75年生まれ、1981-85年生まれ、1986-90年生まれは中位であるが、1976-80年生まれは上位である。
2. 女性既婚率は、1966-70年生まれは上位、1971-75年生と1976-80年生は最上位であるが、1981-85年生と1986-90年生は中位である。
3. 女性定住率は、すべてのコホートで中位である。
4. 女性結婚年齢は、1966-70年生まれから1981-85年生まれまでは中位であるが、1986-90年生まれは上位である。

【総合評価】

1. 小千谷市の既婚率は 1970 年代後半生まれまでは上位以上であるが、1980 年代生まれ以降は、中位に低下した。定住率と結婚年齢はほとんどのコホートで中位である。合計出生率も（1970 年代後半生まれを除いて）中位である。
2. 25-34 歳の出生率は、1980 年前半生まれから 1 人を下回っており、その要因として、1980 年代生まれの女性既婚率が 70 年代生まれ以前よりも顕著に低下していることが挙げられる。
3. 25-29 歳の出生数は低下傾向にあるから、今後 1 人以上を回復できるかは、1980 年代生まれの世代が 30 歳代でどの程度キャッチアップできるかに依存する。

②コホート合計出生率

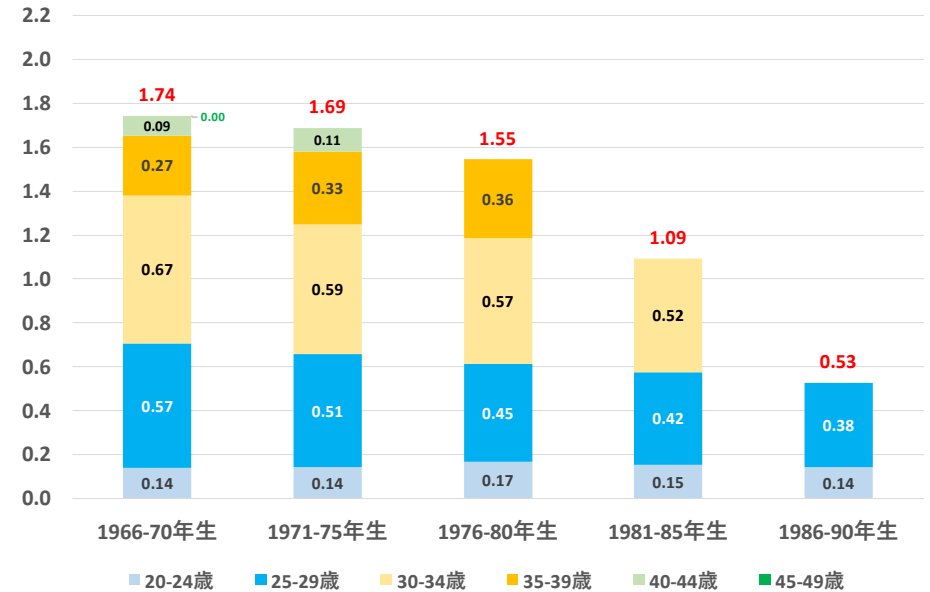
図 6-2 コホート合計出生率の推移



注：新潟県「福祉保健年報」より作成。

- ・ 図 6-2 は、小千谷市のコホート合計出生率の推移を示している。
- ・ 県内他市町村と同様に、25-29 歳以降で、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれ以降の間に合計出生率の大幅な低下がみられる。
- ・ さらに 1971-75 年生まれ以降のコホートでも低下してコホート間の差が拡大している。

図 6-3 コホート合計出生率の年齢区分別内訳

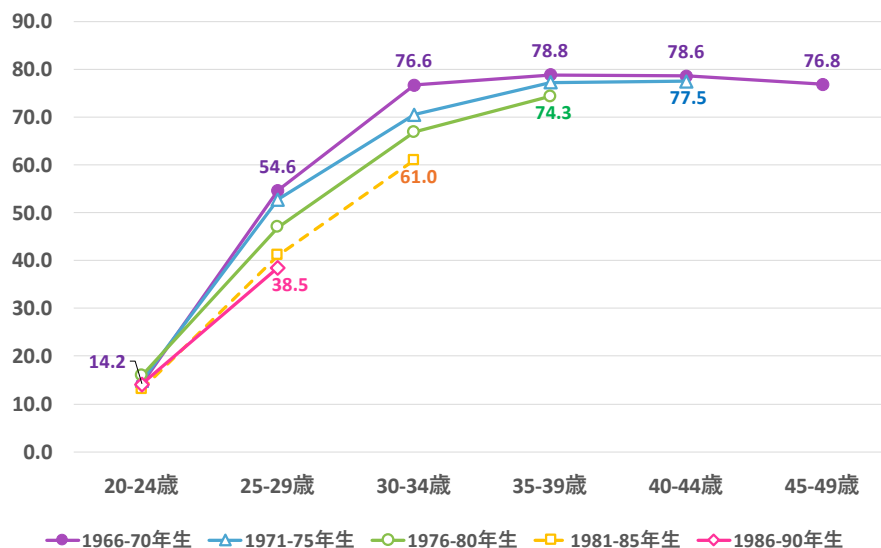


注：新潟県「福祉保健年報」より作成。四捨五入のため内訳の計と合計が一致しない場合がある。

- ・ 図 6-3 は、コホート合計出生率の年齢区分別内訳を示している。
- ・ 20 歳代の出生数は、1966-70 年生まれコホートの 0.71 人に対して、1986-90 年生まれは 0.53 人に減少している。30 歳代では 1966-70 年生まれの 0.94 人に対して、1976-80 年生まれは 0.93 人にわずかに減少している。
- ・ 晩婚化のため 20 歳代の出生率が低下しているが、30 歳代でも 1 人が生まれていない状況が続いている。
- ・ 子どもが産まれる確率が最も高い 25-34 歳の出生数は、1981-85 年生まれから 1 人を下回っており、1986-90 年生まれの 25-29 歳での出生数はより少ない 0.38 人に減少した。

③コホート別既婚率

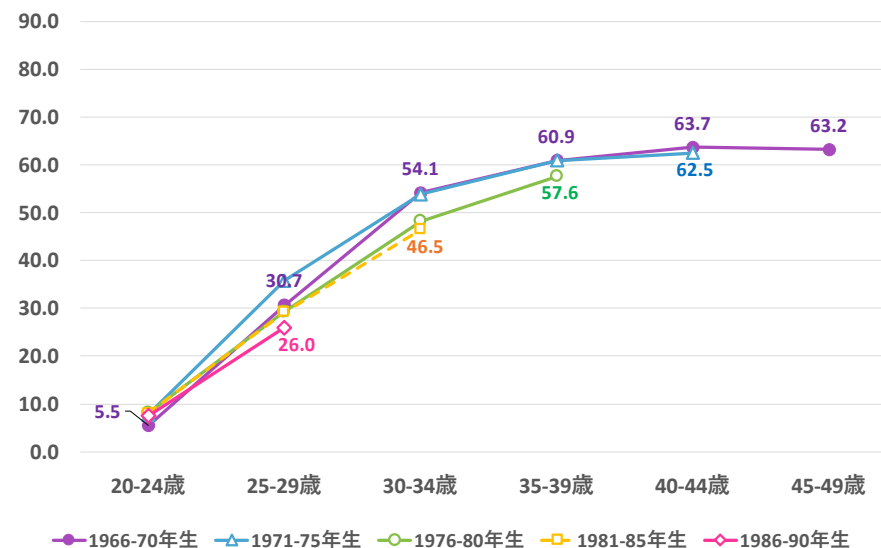
図 6-4 コホート別既婚率の推移(女性) 単位：%



注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 6-4 は、コホート別の到達年齢までの女性既婚率の推移を示している。
- ・ 25-29 歳以降で、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれ以降の間に既婚率の大幅な低下がみられる。さらに、1971-75 年生まれとそれ以降のコホート間でも、25-29 歳と 30-34 歳時点の大きな低下がみられる。
- ・ 25-29 歳の既婚率は、1966-70 年生まれの 54.6%から 1986-90 年生まれは 38.5%に 16.1 ポイント低下し、35-39 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 78.8%から 1976-80 年生まれは 74.3%に 4.5 ポイント低下している。

図 6-5 コホート別既婚率の推移(男性) 単位：%

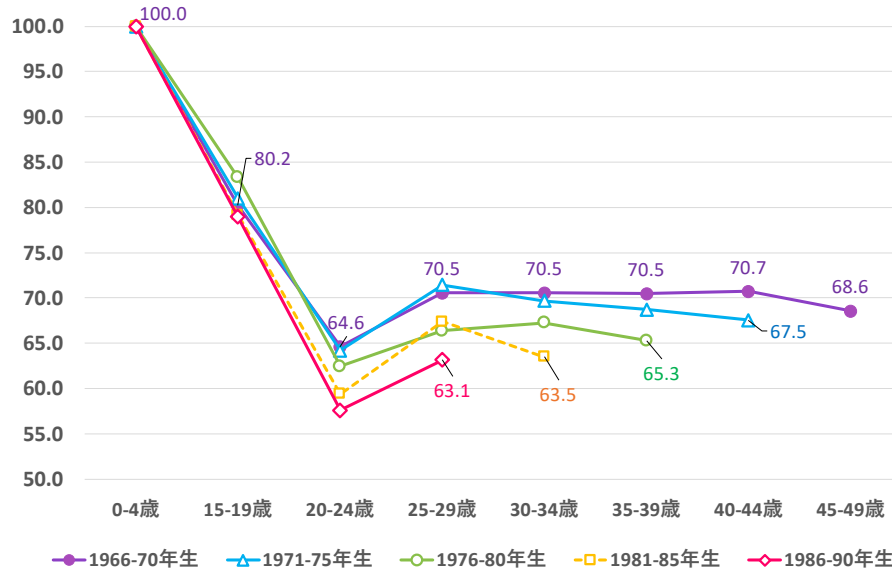


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 6-5 は、コホート別の到達年齢までの男性既婚率の推移を示している。
- ・ 男性既婚率も女性同様に最近のコホートほど低下する傾向が確認できるものの、女性既婚率と比較して、コホート間の差が小さい。
- ・ 25-29 歳の既婚率は、1966-70 年生まれの 30.7%から 1986-90 年生まれは 26.0%に 4.7 ポイント低下し、35-39 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 60.9%から、1976-80 年生まれは 57.6%に 3.3 ポイント低下している。
- ・ 女性既婚率は 40 歳代で 70%台半ばに達するが、男性は 60%台前半に止まり、男性既婚率のほうが低い傾向がある。

④コホート別定住(残存)率

図 6-6 コホート別女性定住率 単位：人口指数

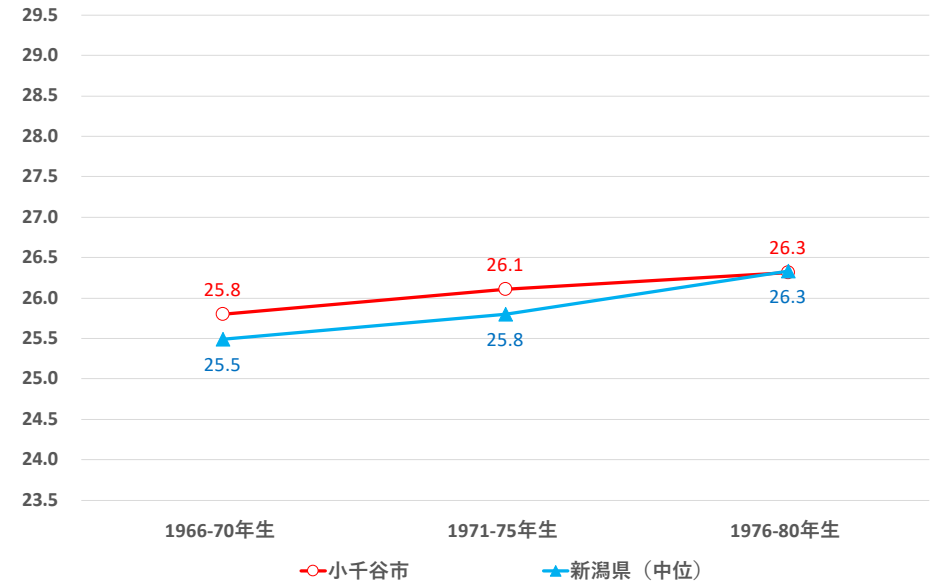


注：0-4歳人口=100. 「国勢調査」より作成.

- ・ 図 6-6 はコホート別の到達年齢までの定住率の推移を示している.
- ・ 25-29歳における女性定住率は、1966-70年生まれの70.5から1986-90年生まれは63.1に7.4ポイント減少しており、35-39歳における女性定住率は、1966-70年生まれの70.5から1976-80年生まれは65.3に5.2ポイント減少している.
- ・ 小千谷市では、25-39歳時でみると、1971-75年生まれ以前は0-4歳時点の70%前後を維持していたが、1976-80年生まれ以降は60%前半から半ばに低下した.

⑤コホート別女性平均結婚年齢

図 6-7 女性平均結婚年齢 単位：歳

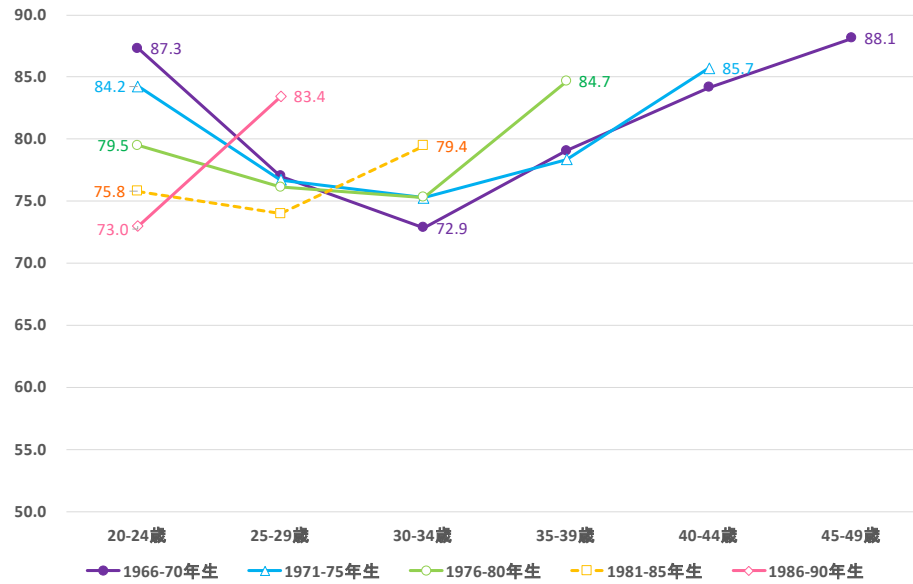


注：「国勢調査」より作成.

- ・ 図 6-7 はコホート別の35-39歳までの女性平均結婚年齢を示している.
- ・ 1966-70年生まれ、1971-75年生まれ、1976-80年生まれの35-39歳までの女性平均結婚年齢は、それぞれ25.8歳、26.1歳、26.3歳である. 1966-70年生まれと比べて、1976-80年生まれは0.5歳だけ平均結婚年齢が遅れている.
- ・ 1966-70年生まれの県内順位は23位、1971-75年生の県内順位は23位、と県内自治体と比較すると遅かったが、1976-80年生は15位となり県内平均(中位)程度となった.

⑥コホート別女性就業率

図 6-8 コホート別女性就業率 単位：%

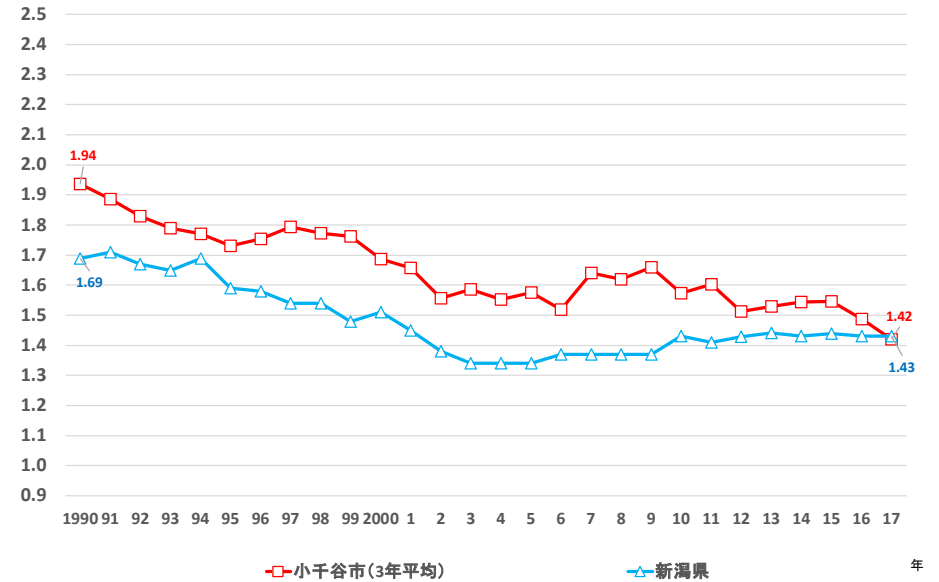


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 6-8 はコホート別の女性就業率の推移を示している。
- ・ 20-24 歳から 25-29 歳までの女性就業率の変化を見ると、1986-90 年生まれの若い世代のコホートで就業率が上昇し、それ以外のコホートでは減少している。
- ・ 30-34 歳の女性就業率を見ると 1966-70 年生まれは 72.9%であったのに対して、1981-85 年生まれは 79.4%に上昇している。
- ・ 1970 年代生まれまでは M 字カーブが確認されたが、1981-85 年生まれコホートでは 30-34 歳時点で M 字の底が確認されない。

⑦期間合計特殊出生率

図 6-9 期間合計特殊出生率の推移



注：市町村の出生率は 3 年間の移動平均値である。新潟県「福祉保健年報」より作成。

- ・ 図 6-9 は、1990 年から 2017 年までの新潟県平均と小千谷市(3 年平均)の期間合計特殊出生率の推移を示している。
- ・ 1990 年以降でみると、小千谷市の期間合計特殊出生率は 2017 年を除き、新潟県平均より高く、期間平均は 0.17 ポイント高い。
- ・ 小千谷市の期間合計特殊出生率は、1990 年の 1.94 から上下しながら低下し、2017 年には初めて新潟県平均を下回り、1.42 にまで低下した。